

久木小学校区住民自治協議会・広報誌

住民協ひろば

第21号（準備会から通算第42号）

発行日 平成31年1月5日

発行所 逗子市久木2-1-1

久木小学校区住民自治協議会

発行人 田倉 由男

今月の主要記事 *新しい年を迎えて・・・田倉代表

*まちのこそだち久木・・・井上まちのこそだち久木代表

*ロボットと生活支援（藤江正克博士講演会）・・・事務局

・・・新しい年を迎えて・・・

私達の“地域づくり”とは――

久小校区住民協代表 田倉 由男

囃されたら踊れというわけで、引き受けてしまったこの役職も3月で任期2年になります。久小校区住民協という組織の形態と運営は客観的に見てもかなり充実していると言えます。事務局のそれは見事な丁寧な舞台回しに、部会長、役員の皆様のご協力に感謝します。

住民協のキーワードは“地域づくり”です。私の役割は住民協における私たちの“地域づくり”とはどういうことなのか、それを明確に位置付けることでした。それなしには私たちの住民協の方向性もイメージも存在しないからです。

この2年間、私たちの“地域づくり”は議論の場であっちに行ったりこっちに行ったりしましたが、私自身がイメージする“地域づくり”に固執してきました。

私たちの“地域づくり”の土台にあるものは、「住民協ひろば」に寄稿した二つのタイトルの中身です。それは「人がつながれば地域は動き出す」「地域ニーズ」に基づく企画力」です。

人と人がつながるにはどうしたらよいのか。地域ニーズに気付くにはどうしたらよいのか。

私は、ここからの発想による展開を大切にすることが、私たちの“地域づくり”につながるのではないかと考えています。

昨年の子ども部会・ふれあい部会の事業も、この発想につながっています。また4月からの事業計画の一つになる予定の減災部会の防災マップ作りにもこの発想があります。

今年もよろしく願いいたします。

30年12月度役員会

12月1日(土)、13:30~15:30、久木会

1. まちのこそだち久木 報告

逗子まちのこ保育プロジェクト代表 井上亮子

まちのこそだち久木は、このまちのこどもをこのまちの人と育て合うことを目指して立ち上がった、未就園児の少人数一時預かり保育の市民活動です。H26.6月から始動して5年目。今年度は、毎週木・金、10時~15時、久木会館を拠点に活動する『まちのこそだち久木』と、月3回火曜日、10時~14時にハイランド自治会館集合解散の野外保育『あるくまちのこ』が活動しています。今年度は…という説明は、活動の性質上、毎年登録会員の入れ替わりが大きいと、活動内容は随時柔軟に変えていく体制をとっているからです。今現在、預り参加のサポーター会員・お預け参加のまちのこ会員合わせて、会員は約100名登録されていますが、中には“念のため登録”という方もいらっしゃると思いますので、実質レギュラーで参加している人数は、50人くらいでしょうか。10・11月と、にわかに登録会員さんが増えて12月は毎回定員の8~9割で推移する運営状況。会員の居住地はほぼ久木、少し桜山・逗子、といった感じですね。

実は今年度当初の預り申し込みは、昨年度までの申し込み数に比べ初年度並みに少なく、これはきっと年度変わりの宣伝不足(^^;)だけではない変化だったと思っています。というのも、まちのこそだち始動からの5年で、逗子市内の未就園児保育の受け皿は飛躍的に増えているのです。公立保育園の新規開園をはじめ、各幼稚園の未就園児クラスの増設(預り保育体制を整えた園もあり)、民間企業型保育室の増加に加え、自主保育活動も各地で立ち上がって、先日お会いしたママからは「たくさん選択肢があって迷う」という素敵なコメントも聞かれました。官民両方からの子育て支援が、一つの成果にはなっていないようです。

ただ、従来通りの保育の受け皿が増えるだけで、子育ての孤独感・負担感が軽減されるのかどうか

館で22名(うち役員15名)が参加して開催されました。主とした議題は次の通りです。

…、これについて、まちのこそだちはもう少し考えていきたいと思っています。

私自身がそうだったのですが、保育園に子どもを預けていた間、若い(あの頃は私も若かった!)親である私は、毎日保育園と仕事場と家の3カ所でしか生きていない生活でした。そこには、住んでいる地域の情報・人脈・資源その他、今私が“面白い”“アリガタイ”と思うものに触れる機会は、正直少なかったですね。そしてやがて来る「学校・幼稚園デビュー」を、どんな鬼ばかりの世間を渡らされることになるのかと、ビクビクしていました。つまり、住んでいる地域が、実は自分を支えてくれるものだったということ知らなかったんです。ましてや夫は仕事場と家の往復しかない、なんと閉塞した生活だったことでしょう!

親も子も、もっと自然に地域に溶け込む感覚が持てる子育て支援がないか…市内の親子サークルもスタンスは同じだと思うのですが、もう一歩『助け合い』に踏み込んだ市民保育にはまた別の可能性があると感じています。久木会館で、町のおじさんが掃除をしている・おばさんがお料理している・話し合っている・踊っている歌っている…そういうところに、子どもたちが溶け込むこと、子どもが溶け込むことで親も迎え入れられること…そういうものを目指しているんです。

このような『溶け込み』の仕掛けになり得るのであれば、保育に限らず、何か別の切り口で取り組んでもいいんでしょうね。久木をはじめ各地の住民自治協議会で進めつつあるコミュニティサービスも、これに当たるのではないのでしょうか。

私(井上)個人的には、今の保育園・幼稚園・学校も、もっと地域に開かれてほしいと思っていますよ。園や学校を日々滞りなく回す先生の立場では、地域と絡むのは面倒くさいという事情もあるだろうとは想像しますがね(笑)。でも、保育や教育にサービス感覚が導入されちゃっているような場面を見ると、地域との垣根を高くしたこ

とによる難しい問題も生じているように感じます。

まちのこそだちの預りサポーターさんは基本的に“このまちのお母さん”です。つまり保育資格は問わず、常識的な子育て感覚と協調性と最低限の研修に参加して下さる方にお預りを託しています。保険も最低限のボランティア保険を適応するのみですので、そういう点に「不信」「不安」を持たれる方も少なからずいらっしゃる

と思います。また、市民保育の限界は時間・日数その他にもいろいろあって、これらをクリアする『保育』を望むなら一般の保育園・幼稚園を選択することになるでしょう。考え方はいろいろです。これからは働き方、暮らし方、価値観も変わっていく時代だと思いますので、まちのこ構想が支持されるかどうか、ぜひ住民自治協議会の中で見守っていただけたら有難いです。

2. 31年度まちづくり交付金要望額

11月8日行った市との協議(12月号参照)の結果を基にして、又席上市から提示された「平成31年度逗子市地域づくり交付金交付要綱第5条に規定する基準(案)」を参考にして、審議を行いました。

その結果、事務局が提示した原案も元にして、関係者間でさらに協議をして市への提示要望額を決定することとなりました。

市へは12月20日、下表の案を提示しました。
注：上記の新たに市から提示された交付金交付基準(案)では、交付金の区分が変わり、右の表のよう

になりました。住民協から提示する資料は、新しい区分で分類しています。

新しい区分(名称)	30年度までの区分
組織運営経費 (計算基準を人口比に変更)	自主事業費 (計算基準は地域の世帯数)
共通事業経費 但し一部が選択事業から移行	共通事業費
地域づくり事業経費	選択事業費

交付金要望額		1,035,000	
区分	組織運営経費	465,000	提示された計算基準による
	共通事業経費	450,000	〃 限度額
	地域づくり事業経費	120,000	〃 計算基準による
備考	注：共通事業経費は、防災マップ作製に 地域づくり事業経費は、①みんなの食堂、②ふれあい活動(地域の助け合い事業)、 ③防災啓発、④子ども見守り支援、の各事業に各¥30,000を計上		

3. 久小校区避難所準備委員会委員の交代

発災した際、避難所が円滑に開設できるように、久小校区に避難所準備委員会が設置されており、平常時から準備を重ねています。住民協は避難所と深い関係があるため、準備委員会に参加しています。

現在は鈴木事務局長が委員として出席していま

すが、特に当会の減災部会と関係が深いので、事務局長から新たに就任された金子減災部会長に委員を交代することが事務局から提案されて審議の結果、承認されました。31年1月度に開催される避難所準備委員会から金子様が出席されます。

役員会からのお知らせ

1. みんなの食堂(第10回)報告

11月30日(金)開催

◆メニュー: サツマイモご飯にトン汁、◆参加者: 155名(子ども88、大人49、スタッフ18)、

◆収支: 収入¥30,200、支出¥11,666、差引残高¥18,534、◆今回の特徴は過去最高の参加者となったことで、かなりの数の方々に提供できなかったこと。これまで参加が少なかった地域からかなりの参加者があったことです。

2. 「藤江博士と考える会」が盛況

12月16日14:00~16:00、久木会館に藤江正克博士(山の根在住)をお迎えして、「ロボットに手伝わせて豊かな老後をかちとろう!」という表題で対話集会を開催、49名の方々が参加されて盛況でした。お話の内容は、◆博士と逗子の関係、市の地理と高齢問題(30%を超える高齢化率と線路を越えねばならない生活実態)◆ロボットの変遷◆介護ロボットの現状と政府のすすめる施策(移乗・移動・排泄・見守りコミュニ

ケーション・入浴・介護業務支援)◆貢献する工業技術、コンピューターとITの普及、臓器の物理モデルに基づくロボット制御◆人と機械の仲よし共存技術、AIの飛躍的变化、◆地域包括支援センターの役割◆最後に、複数の企業体と提携して、配食ロボットの使用を個人レベルで広げている地域の実例の話を中心に、地域が発信して当市でロボットの活用を進めていったらどうか、の提案がありました。

極めて有益な今後の発展を示唆するお話でした。

3. 役員会の開催日変更のお知らせ

1月度役員会は休会とし、2月度役員会は2月9日(第2土曜日)、9:30~11:30、開催に変

更となりました。連絡会は予定通り(1月21日(月))開催いたします。

部会報告

ふれあい部会(11月22日)報告 龍村敦子

12月で山の根地区のケーススタディを終了するつもりでしたが、もうしばらく地区限定の学びを続けることになりました。理由としては現在4ケースの活動をしていますが、その内サポーターのアクシデントで1件が休止、サポートされる方が亡くなれば1件中止となり、ニーズの掘り起こしが必要と判断したからです。ケーススタディの4

件は繊細な内容で「そこまでやるのか」という意見もでるようなニーズです。いずれ住民協のどこかの時間で発表の機会があろうかと思えます。その繊細さこそ「顔の見える住民主体のサービス」ではないかと確信するのですが……。この……が意味深さの象徴でもあります。

2018年11月27日

減災部会(11月24日)報告 金子春夫

<出席者> 鈴木(為)、森田、森戸、中村、新倉、金子

<開催日時・場所> 11月24日(土)10:00~11:20 久木会館

1. 部会員動向

久木連合町内会の鈴木友行・鈴木昌代両氏に連絡したところ、共に来年から部会に出席する、との返答を得た。ただし、鈴木友行氏は当

日仕事が入っていないことが前提とのことであった。

2. 逗子市地域づくり交付金について

鈴木委員より交付金についての進捗説明があった。

減災部会でとりまとめた申請事業・予算については、防災マップ作製に25万円、啓蒙チラシ作りに6万円が住民協役員会で承認され、市との事前協議がおこなわれた。11月14日の市

からの返答を受け12月7日に再度申請を行う予定だが、市の返答が遅れているのが現状である。

減災部会としては、このふたつの事業に交付金が得られるであろう、ということで準備を進めることとした。(注)12月10日、防災地図作成・45万円(未だ実施内容が煮詰まっていないので、事務局判断で限度額で申請)、防災啓発・3万円(一律の金額となる)、で申請した。

① 防災マップの作製について

- ・市に新しい地域地図(電子地図)があるが、簡単には修正ができないものであるため活用できない。
- ・電子地図は、ゼンリン、国土地理院などから購入するのが良いかもしれない。
- ・現在地域の防災マップを作製している自治会から情報をもらう。

トピックス

塩害・・・猛烈な風を伴った台風24号が、9月30日夜半関東地方を襲いました。南東方向から吹き付ける風が海水を巻き上げて塩の飛沫となって地域の樹木を襲い、落葉樹を一夜にして



一見枯れ木にしてしまいました。異変はそれだけにとどまらず、

しばらくして一部の花木に春の花が咲き始めました。何かの原因で葉を落としてしまうと、葉から出ている花が咲くのを待てという信号を出している

一見枯れ木にしてしまいました。異変はそれだけにとどまらず、しばらくして一部の花木に春の

- ・他の選択肢も今後検討する。
- ・いずれにしろ地域住民が関心を持って参加することが最も重要なことである。

② 防災チラシ作成・配布

- ・各自治会、自主防災がどのような啓蒙活動を過去におこなった、或いはおこなっていることを参考にして作製してはどうか。

/地域住民に配布するだけでは読んでもらえない。何か付加価値を考える必要がある。

<例> 市や消防から受け取れる「命のカプセル」(救急医療情報キット)を一緒に配る等。以上の点を踏まえて、今後方策を検討することとした。

3. 会議日程

12月の部会は休会とする。次回は1月26日(土)10:00～、久木会館でおこなう。

休眠ホルモンが出なくなるので、春のような温かさに合うと花芽が目覚めて花を咲かせてしまうということだそうです。右の写真は、県道沿いで咲いていた海棠です。



11月20日撮影
葉を落としてしまった四季咲き薔薇

は、新しい花芽を成長させて大凡一月半の遅れで、11月下旬から花を咲かせています。初冬の花は、花持ちがよくしかも害虫がいないので、長い間楽しめます。駅裏にあるトーテムポール広場のバラも季節外れの良い花を咲かせています。

左の写真 12月7日撮影

編集後記

井上代表から「まちのこそだち久木」のお話を伺いました。地域の人が地域の子供を保育することを通して、「子どもの心に心のふるさとを創り上げる」ということです。うるおいの少なくなった地域に横ぐしを通していく地道な活動です。市の保育環境は、まちのこそだちが始まってからの5年の間に格段と良くなったせいで、預かる子どもの数は減っているそうですが、地域で子どもを育てていくこの活動は、是非拡げていきたい活動です。

藤江正克博士から、ロボットの生活支援分野への活用のお話を伺いました。ロボットは江戸時代のから

くり人形から始まって、今や漫画の鉄腕アトムや映画の中のロボットの世界を過ぎて、すでに医療や介護の世界で実用化が始まっているそうです。ある自治体では、複数の企業体を開発したシステムを活用して、配食サービスができるロボットを個人に貸し出すサービスを始めているとのこと、高齢者人口の多い中国では、排泄介助ができるロボットが普及し始めて、かなりの数のロボットが日本から輸出されているとのこと。行政や地域包括支援センターと共に、活用を考える時代に来ていることがわかりました。

事務局 鈴木 為 之

連載【グループ紹介】 第8回 《 食生活改善推進団体・若宮会 》

私は地域の人達へ健康な食生活・健康作りを推進しているヘルスマイトと呼ばれる全国組織のボランティア団体に属しています。市町村で行われる養成講座を受講し、食生活改善推進員になった人で、現在鎌倉支部（23名）、逗子支部（56名）、葉山支部（44名）の計123名で構成されています。



逗子支部の活動は、昭和54年から始まった、社会福祉協議会の後押しで、独居老人の昼食会が月1回ありました。当日参加者はおしゃれをして地域の皆様と会話をしながらお食事を食べるのですが、その日を楽しみにしてくださる方々が数多くいらっしゃいました。作る若宮会

のメンバーも、季節に合った献立や冷たいもの熱いものなど工夫して、嬉しい時間でしたが残念ながら、今は取りやめになってしまいました。逗子市からの依頼事業でもあり、一人になっても困らないための男性料理教室も10グループできました。食品添加物や洗剤の勉強、塩分を調整した薄味の料理、生活習慣病予防、お口の健康から8020運動、親子の料理教室、小中学校への食育教室の出前授業、最近では認知症対応の活動も取り入れています。

昭和39年に設立され今年で55年がたちます。又、昭和59年から始まった「久木連合町内会の料理講習会・試食会」は、年2回実施しており今年で34年になります。献立作りを自宅で行い、試作してきた献立を試食しながら和気あいあいと献立を決めます。

若宮会のメンバーも高齢化し、退会したメンバーにも声掛けして手伝ってもらっています。久木町内会の防災訓練では、災害時に利用できる料理法の紹介にも協力しました。



久木小学校区の住民自治協議会が始めた「みんなの食堂」もなかなか協力が出来ませんが、若いメンバーによる盛況な様子が耳に入ってきます。若い人達が若宮会に入って下さって、今後の久木町内会の料理講習会を引き継いで頂けることを望みます。

関恵梨子（久木3丁目在住）